日本におけるコミュニティビジネスの可能性

外国語学部英語学科 5 年　長崎照葉

論文執筆の動機は、満員電車に乗りたくないということ、そして会社に行くことへの疑問である。また、ゼミを通してワーキングプアと呼ばれる人々や野宿者、孤独な老人、精神障害者の人たち、地方衰退、農村の貧困などの問題を知った。これらすべてのことの解決策として考えたのがコミュニティビジネスである。地域の住民が地域で働き、地域の問題を解決し、それが持続可能な地域をつくっていくのではないか。家族や友人のいない人たちも、現状の経済体制のもとでは隅に追いやられ貧困状態となっている人たちも、仲間とともに楽しく人間らしく生きていける地域づくりが、オルタナティブな働き方・生き方になるのではないか。

一章では、日本のコミュニティビジネスの状況を概観する。特定の問題解決のためのビジネスを行う NPO はたくさんあるが、包括的な地域づくりではない場合が多いこと、そして法制度の影響もあって自治体の委託事業にたよっている福祉関連の NPO が多いことを指摘する。また会社で働くことのオルタナティブになり得る可能性はあまり感じられず、NPO と“ボランティア”のイメージが切り離せないことがその一因となっていると筆者は考えた。

二章では、筆者の考える好例として、足立区の株式会社アモールトーワの活動を紹介し、地域のための会社であること、包括的な地域づくりであることなど、コミュニティビジネスとして学べる点を考える。

三章では、アモールトーワに学んだことを通し、オルタナティブな働き方・生き方となりうるコミュニティビジネスとはどうあるべきかを考察し結論とする。

主な参考文献

本間正明他「コミュニティビジネスの時代―NPO が変える産業、社会、そして個人」岩波書店、2003 年

日本経営診断学会編「コミュニティ・ビジネスモデルの診断―公共性・共同性を意識して―」同友館、2004 年

中山徹・橋本理「新しい仕事づくりと地域再生」文理閣、2006 年